

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成24年2月9日
【四半期会計期間】	第70期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)
【会社名】	株式会社 C K サンエツ (旧会社名 サンエツ金属株式会社)
【英訳名】	CK SAN-ETSU Co.,Ltd. (旧英訳名 SAN-ETSU METALS Co.,Ltd.) (注)平成23年6月20日開催の第69期定時株主総会の決議により、平成23年10月3日から会社の商号を上記のとおり、変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 釣谷 宏行
【本店の所在の場所】	富山県高岡市守護町二丁目12番1号
【電話番号】	0766(28)0025(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役財務・企画部長 松井 大輔
【最寄りの連絡場所】	富山県砺波市太田1892番地
【電話番号】	0763(33)1212
【事務連絡者氏名】	取締役財務・企画部長 松井 大輔
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第3四半期連結 累計期間	第70期 第3四半期連結 累計期間	第69期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	35,003	42,414	48,627
経常利益(百万円)	2,503	1,915	3,422
四半期(当期)純利益(百万円)	1,474	1,728	2,249
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,459	1,542	2,261
純資産額(百万円)	12,249	14,841	13,050
総資産額(百万円)	28,102	34,800	29,903
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	190.61	235.28	290.95
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	43.6	39.9	43.6

回次	第69期 第3四半期連結 会計期間	第70期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 ( )(円)	45.61	33.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第69期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、当社(株式会社 C K サンエツ)及び子会社5社により構成されております。当第3四半期連結累計期間においては、平成23年4月1日付で配管機器の製造販売及び溶融歪めつき加工事業を行っている、シーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、報告セグメントは従来からの2事業から「配管・鍍金」を加え3事業となりました。また、従来からの「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当社及び事業子会社シーケー金属株式会社は、平成23年12月14日開催の取締役会決議に基づき、株式会社リケンとの間で配管機器事業に関する業務提携契約及び合併会社設立契約を締結いたしました。

#### 合併会社の概要

(1) 名称	株式会社リケンC K J V
(2) 所在地	富山県高岡市守護町二丁目12番1号
(3) 代表者	代表取締役社長 釣谷 宏行
(4) 事業内容	配管機器の製造、販売
(5) 資本金	60百万円
(6) 設立年月日	平成23年12月27日
(7) 出資比率	当社：50% 株式会社リケン：50%

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災から立ち直る局面にありましたが、タイの洪水に伴う部品調達難、欧州債務危機、長引く円高、中国の景気減速などが、景気の足を引っ張りました。また、主要原料である銅の価格は、期首から高値圏で推移していましたが、昨年9月下旬に、急落しました。

このような経営環境のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は、他社との事業提携などにも機動的に対応できるようグループの再編に着手しました。まず、平成23年4月1日に、シーケー金属株式会社の議決権の過半数を取得して連結子会社化し、当社グループの「配管・鍍金事業」と位置付けました。また、平成23年10月3日、当社の社名を、株式会社C Kサンエツに変更し、会社分割の方法により自らを純粋持株会社化すると同時に、事業子会社サンエツ金属株式会社を設立して、持株会社制への移行を完了しました。さらに、平成23年12月14日、当社及び事業子会社シーケー金属株式会社は、業界再編の推進と相乗効果の追求を目的として、株式会社リケンと、配管機器の製造拠点を統合して、株式会社リケンC K J Vを設立することに合意しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、上期の銅相場が高めに推移し、また、シーケー金属株式会社を連結したため、売上高は、424億14百万円（前年同四半期比21.2%増加）となりましたが、原料相場差損（前年同四半期は差益）が発生したため、営業利益は、13億40百万円（同49.4%減少）となりました。経常利益は、銅相場が下落したことで発生したデリバティブ評価益5億32百万円を営業外収益に計上しましたが、19億15百万円（同23.5%減少）となりました。なお、四半期純利益は、シーケー金属株式会社の連結子会社化により、負ののれん発生益など特別利益6億55百万円を計上したため、17億28百万円（同17.2%増加）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、従来の「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

#### 伸銅

伸銅事業では、販売量は6万2,386トン（前年同四半期比6.3%増加）となり、売上高は、上期の原料相場が高値だったこともあり、363億20百万円（同11.7%増加）となりましたが、前年同四半期に生じた原料相場差益が発生しなかったため、セグメント損益は、13億98百万円（同45.8%減少）のセグメント利益となりました。

#### 精密部品

精密部品事業では、5月に新工場が稼働し、販売量が増加したため、売上高は、29億33百万円（前年同四半期比18.2%増加）となりましたが、原料相場差損が発生したため、セグメント損益は、53百万円（同0.1%減少）のセグメント利益となりました。

#### 配管・鍍金

配管・鍍金事業では、業界における価格競争が激化したため、売上高は、31億60百万円となり、セグメント損益は、1億82百万円のセグメント損失となりました。

#### (2) 事業及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、88百万円であります。

また、当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の状況のセグメントごとの変更内容は、次のとおりであります。

##### 伸銅

変更事項はありません。なお、当第3四半期連結累計期間における研究開発費は41百万円であります。

##### 精密部品

該当事項はありません。

##### 配管・鍍金

平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、新たに配管・鍍金事業に関する研究開発活動が追加されました。なお、当第3四半期連結累計期間における研究開発費は46百万円であります。

#### (4) 従業員数

第1四半期連結会計期間において、シーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、配管・鍍金事業に213名の従業員数が加わりました。

なお、従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,600,000
計	29,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	8,867,000	8,867,000	名古屋証券取引所市場第二部	単元株式数 100株
計	8,867,000	8,867,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	8,867,000	-	2,756	-	2,671

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 528,800	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 1,650,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,687,100	66,871	-
単元未満株式	普通株式 1,100	-	-
発行済株式総数	8,867,000	-	-
総株主の議決権	-	66,871	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) サンエツ金属株式会社	富山県高岡市吉久一丁目4番1号	528,800	-	528,800	5.96
(相互保有株式) シーケー金属株式会社	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	1,650,000	-	1,650,000	18.60
計	-	2,178,800	-	2,178,800	24.57

(注) 1. 当第3四半期会計期間末の自己保有株式数は928,800株であり、相互保有株式数は1,250,000株であります。  
2. サンエツ金属株式会社は、平成23年10月3日に株式会社C Kサンエツに商号変更し、住所を富山県高岡市守護町二丁目12番1号に変更しました。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	197	745
受取手形及び売掛金	14,080	14,748
商品及び製品	2,844	3,584
仕掛品	2,836	2,921
原材料及び貯蔵品	2,555	2,090
前払費用	65	60
繰延税金資産	303	348
その他	191	690
貸倒引当金	28	30
流動資産合計	23,047	25,158
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,384	6,100
減価償却累計額	1,822	3,136
建物及び構築物(純額)	1,561	2,963
機械装置及び運搬具	11,312	15,805
減価償却累計額	10,257	14,069
機械装置及び運搬具(純額)	1,054	1,736
土地	2,987	3,994
建設仮勘定	357	60
その他	605	1,643
減価償却累計額	550	1,540
その他(純額)	54	103
有形固定資産合計	6,016	8,857
無形固定資産		
その他	53	52
無形固定資産合計	53	52
投資その他の資産		
投資有価証券	749	676
長期前払費用	26	14
その他	98	155
貸倒引当金	88	115
投資その他の資産合計	786	730
固定資産合計	6,855	9,641
資産合計	29,903	34,800

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,640	3,291
短期借入金	10,100	12,950
1年内返済予定の長期借入金	-	58
未払金	76	259
未払費用	387	511
未払法人税等	1,140	283
賞与引当金	408	374
設備関係支払手形	214	233
その他	48	260
流動負債合計	16,016	18,223
固定負債		
長期借入金	-	557
繰延税金負債	118	359
再評価に係る繰延税金負債	373	326
引当金	344	492
固定負債合計	835	1,735
負債合計	16,852	19,958
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,387	2,756
資本剰余金	2,303	2,588
利益剰余金	7,827	9,479
自己株式	88	1,492
株主資本合計	12,429	13,331
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	120	5
土地再評価差額金	473	519
為替換算調整勘定	28	25
その他の包括利益累計額合計	621	539
少数株主持分	-	970
純資産合計	13,050	14,841
負債純資産合計	29,903	34,800

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	35,003	42,414
売上原価	31,062	39,087
売上総利益	3,940	3,327
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	538	642
給料及び手当	287	538
その他	465	805
販売費及び一般管理費合計	1,291	1,986
営業利益	2,648	1,340
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	15	21
デリバティブ評価益	-	532
その他	35	141
営業外収益合計	51	695
営業外費用		
支払利息	47	56
為替差損	30	22
デリバティブ評価損	102	-
その他	17	40
営業外費用合計	196	119
経常利益	2,503	1,915
特別利益		
固定資産売却益	0	0
負ののれん発生益	-	576
段階取得に係る差益	-	64
補助金収入	9	9
その他	-	5
特別利益合計	9	655
特別損失		
固定資産除却損	1	13
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	0	-
特別損失合計	2	13
税金等調整前四半期純利益	2,511	2,557
法人税等	1,036	933
少数株主損益調整前四半期純利益	1,474	1,624
少数株主損失( )	-	103
四半期純利益	1,474	1,728

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,474	1,624
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1	125
土地再評価差額金	-	46
為替換算調整勘定	13	2
その他の包括利益合計	14	81
四半期包括利益	1,459	1,542
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,459	1,646
少数株主に係る四半期包括利益	-	103

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、シーケー金属株式会社の株式取得に伴い、同社を連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間より、持株会社制移行に伴い、新たに新設分割方式の会社分割によりサンエツ金属株式会社を設立し、同社を連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
	当四半期連結会計期間末日満期手形 当四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の当四半期連結会計期間末日満期手形が、当四半期連結会計期間末残高に含まれています。
	受取手形 1,383 百万円
	支払手形 5 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	548百万円	783百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月21日 定時株主総会	普通株式	34	4.5	平成22年3月31日	平成22年6月22日	利益剰余金
平成22年11月10日 取締役会	普通株式	30	4.0	平成22年9月30日	平成22年12月2日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月20日 定時株主総会	普通株式	46	6.0	平成23年3月31日	平成23年6月21日	利益剰余金
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	41	5.0	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年5月26日付で、釣谷宏行、伊勢晴之、渡信行、川崎駿一、他12名から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第1四半期連結会計期間において資本金が369百万円、資本準備金が368百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,756百万円、資本準備金が2,671百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	合計
売上高			
外部顧客への売上高	32,521	2,481	35,003
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,172	1,208	3,381
計	34,694	3,690	38,384
セグメント利益	2,580	53	2,634

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,634
セグメント間取引消去	14
四半期連結損益計算書の営業利益	2,648

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	36,320	2,933	3,160	42,414
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,902	1,683	1	4,586
計	39,222	4,616	3,162	47,001
セグメント利益又は損失( )	1,398	53	182	1,269

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,269
セグメント間取引消去	141
全社費用	71
四半期連結損益計算書の営業利益	1,340

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。これは平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、同社の資産を報告セグメント「配管・鍍金」に計上したことによるものです。

前連結会計年度末に比べて増加したセグメント資産の金額は「配管・鍍金」が5,483百万円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結累計期間においては、平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、報告セグメントは従来の2事業から「配管・鍍金」を加え3事業となりました。また、従来の「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)

共通支配下の取引等

持株会社移行に伴う会社分割

当社は平成23年5月11日開催の当社取締役会において、持株会社制への移行に関わる新設分割計画の詳細について決議し、平成23年6月20日開催の定時株主総会において承認可決され、平成23年10月3日付で持株会社制に移行しました。

## 1. 取引の概要

### (1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称 伸銅事業及び精密部品事業

事業の内容 主として黄銅棒・黄銅線及びカメラマウントなどの精密部品の製造販売

### (2) 企業結合日

平成23年10月3日

### (3) 企業結合の法的形式

当社を新設分割会社、サンエツ金属株式会社を新設分割設立会社とする新設分割であります。

### (4) 結合後企業の名称

サンエツ金属株式会社（当社の連結子会社）

### (5) その他取引の概要に関する事項

純粋持株会社制への移行により、当社グループの主力事業である、伸銅事業、精密部品事業並びに配管鍍金事業における同業他社との事業提携やM & A等の局面において、戦略的かつ専門的な検討を実施し、あらゆるリスクについて詳細な分析を行ったうえで、機動的かつ積極的に展開し、グループ利益の極大化を追求することを目的としております。

## 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日 )
1 株当たり四半期純利益金額	190円61銭	235円28銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益金額 ( 百万円 )	1,474	1,728
普通株主に帰属しない金額 ( 百万円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 ( 百万円 )	1,474	1,728
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	7,734,578	7,346,239

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

第70期 ( 平成23年 4 月 1 日から平成24年 3 月31日まで ) 中間配当については、平成23年11月10日開催の取締役会において、平成23年 9 月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

- ( イ ) 中間配当による配当金の総額.....41百万円
- ( ロ ) 1 株当たりの金額..... 5 円00銭
- ( ハ ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年12月 2 日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月8日

株式会社C Kサンエツ  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西川 正房 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安田 康宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社C Kサンエツ（旧会社名 サンエツ金属株式会社）の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社C Kサンエツ（旧会社名 サンエツ金属株式会社）及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。